

第47回 全日本中学生水の作文コンクール
和歌山県入賞作品集

水について考える

和歌山県

いあいさし

水は、あらゆる生命の根源であり、私たちの暮らしや産業活動を支える限りある貴重な資源です。近年では、世界的な渇水や洪水が頻発し、水利用の安定性、安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

こうしたことから、国においては、水を共有の財産と位置づけるとともに、健全な水循環の重要性について、国民の理解を深めるため、毎年八月一日を「水の日」と定め、様々な関連行事が行われています。

和歌山県では、この一環として、中学生を対象に、昭和五十四年から「全日本中学生水の作文コンクール」の和歌山県審査を実施しており、本年は、六三〇編もの御応募をいただきました。

いずれも、「水について考える」というテーマにふさわしく、これまでの経験を通じて感じた水の大切さについて表現したものや世界の水資源問題について考察したもののなど、様々な視点から水について考え、水への思いが表現された素晴らしい作品ばかりでした。

これらの中から、入賞作品十八編をこのたび作品集にまとめました。家庭や学校で御活用いただき、水への関心をさらに深めていただくことを願っています。

令和七年八月六日

和歌山県地域振興部長 赤坂 武彦

もくじ

優秀賞

水が思うこと

和歌山県立田辺中学校

三年 岩崎

志果
・
・
・
1

飲める水にありがとう

和歌山県立田辺中学校

三年 坂倉

朱音
・
・
・
3

断水生活の練習から気付けた水の大切さ

和歌山県立向陽中学校

二年 松元

菜那
・
・
・
5

入選

貴重な水に感謝して

和歌山県立向陽中学校

二年 上田

陽真里
・
・
・
7

水不足を解決するために

和歌山県立向陽中学校

二年 中村

紅葵
・
・
・
8

断水から学ぶ

和歌山県立向陽中学校

二年 西

咲久士
・
・
・
9

水の大切さと共存

和歌山県立向陽中学校

二年 西口

莉々花
・
・
・
10

水について

海南市立亀川中学校

二年 山口

苺華
・
・
・
11

自分にできる節水く水と共にく

宝物の水

水の大切さ

未来へつなぐ水の知恵

水のありがたみ

水の物語

きれいな水

海南市の水道について

水と生き物の関係

私と水

開智中学校 一年 明坂 隆真 . . . 1 2

和歌山県立向陽中学校 二年 岡本 歩侑 . . . 1 3

和歌山県立向陽中学校 二年 生越 陽菜 . . . 1 4

和歌山県立田辺中学校 一年 総村 梨里香 . . . 1 5

和歌山県立向陽中学校 二年 左古 真優 . . . 1 6

和歌山県立田辺中学校 三年 茶畑 有那 . . . 1 7

開智中学校 二年 弘田 詩乃 . . . 1 8

海南市立亀川中学校 一年 南島 あい . . . 1 9

和歌山県立向陽中学校 二年 矢出 楓 . . . 2 0

海南市立亀川中学校 二年 横出 ひなた . . . 2 1

(掲載順序は五十音順です。)

優 秀 賞

水が思うこと

和歌山県立田辺中学校 三年

いわさき ここは
岩崎 志果

水。それは何万、何億年も前から存在する私たちのご先祖様。人間が誕生する前までは自由気ままに過ごしていた水、それは今でも同じだろうか。

地球上に水ができた約四十六億年前、生き物が一切いなく、水はたった一人で暮らしていた。川から海、海から雲、雲から雨へと世界をめぐっていた。そんな中、生命は誕生し、植物、魚、鳥、そして人間。このときから水はみんなの命を繋ぐものになっていった。魚たちは泳ぎ、池の近くには花が咲いている。水を飲もうと手ですくった水はきらきら輝いていて、なんだ

か嬉しそうだった。晴れている日の外ではいつもと違う七色の姿を見せてくれる。でも、最近の水は元気がない。海に行けば、いつもは光にあふれている水面も、今となってはごみだらけの底が見えない茶色の姿だ。ごみの中には木くずや魚の骨だけではなく、ペットボトルやお菓子の袋。水は光を失っていた。海だけではなく、今までさらさらと流れていた川はせき止められてダムになっていたり、工場近くの川は汚れた水が混ざっていたりする。過去にはその水が原因で公害が発生し、何百人もの人々が亡くなったこともある。今もなお、どこかで続いている戦争も、水の取り合いで起こったものもある。水はこんなことを望んでいるわけでは決していない。生命の支えとなるために土や空をめぐっている。人を困らせたい、争いを起こしたいと思っではない。

では、水は何を思っているか。水は人間、生き物にとって生きるために必要不可欠な存在だ。飲み水として、食料を育てるために、清潔な暮らしのために。なのに、どうしてこんなに粗末に扱われるのか。どうして取り争ってしまうのか。水はすべての生き物の助けになりたいだけなのに。ただそう思っている。

水の思いに応えるために、私たちは何をすべきだろうか。水

の輝きを取り戻すためにごみ拾い、ごみの分別を意識し、環境を汚染しないようにすることだと思う。ダムを破壊して川の流れを戻す、水が原因の争いを今すぐやめさせるのは不可能なこと。しかし、一人一人の意識を変えることは可能なことではないのか。一人でも多く、水の今の状況、水が今、何を思っているかを考えてきたら、水は、幸せを取り戻せるのではないか。水は今何を思っているのだろう。その思いを受け継いだ私とあなた、人間は何を思い、何をしなければいけないのだろうか。水の運命は私たちに委ねられている。人間が変われば、水は元気なる。澄んだ川を流れ、小魚と踊り、田んぼを満たして作物を育てる。そんな日々が戻ってくることを水は信じている。水はずっと願っている。目には見えないう、言葉に表すことはできないけれど、ずっと願っている。耳を傾けると水はすぐそこで私たちにささやいている。透き通った綺麗な世界でまた、幸せな毎を送りたい、と。

優 秀 賞

飲める水にありがとう

和歌山県立田辺中学校 三年

さかくら あかね
坂倉 朱音

歯を磨くのも、お風呂に入るのも、何の心配もいらぬ。けれど、フィリピンは違つた。水道水は飲料には適さず、現地の人々でさえ購入した飲み水を使つていた。私の滞在先にもウォーターサーバーがあり、毎日補充される大きなボトルの水が命を支えていた。水に対してこんなにも慎重になる生活は初めてだつた。歯磨きのときも、口をすすぐのは飲料水。シャワーを浴びるときも、口を閉じ、誤つて飲み込まないように気をつける。日本と同じ感覚でいた友人は体調を崩し、数日間寝込んでしまった。「水が怖い」そんな感情を抱いたのは、生まれて初めてのことだつた。

「その水、飲んじゃだめ。」
フィリピンに到着したばかりの私が、水道の蛇口をひねり、コップに水を入れて飲もうとした瞬間のことだつた。現地のスタッフに止められた私は、思わず立ち尽くした。喉が渴いたときに水を飲む。そんな日常がここでは「危険」とされる。私はそこで初めて、自分が生きてきた環境の特別さに気づいた。
一ヶ月間のフィリピン留学で、私の価値観は大きく変わった。日本では、水道水をそのまま飲む。料理に使うのも、

だが、それは決してフィリピンが悪いのではない。世界には、きれいな水を手に入れられない人々が数多く存在する。何時間もかけて水をくみに行く子どもたち。水が原因で病気になる人々。きれいな水がある日本の方が世界的には珍しいのだと知り私は言葉を失つた。それからの日々、私は「水」に対する意識が大きく変わった。たとえばバケツにためた水でシャワーを浴びるバケツシャワー。限られた水を大切に使いながら、工夫して暮らす人々の姿に、尊敬の念すら抱いた。彼らの生活には、「水を無駄にしない」という当たり前が息づいていた。

そして帰国した日。私は思わず水道の蛇口をひねり、コップに水を注いで一口飲んだ。冷たくて、透き通っていて、どこか懐かしい味。胸の奥が、じんわりと熱くなった。

フィリピンでの経験は、私に問いかけを投げかけた。「あなたが当たり前だと思っているその水、本当に当たり前のものですか。」今、私は願っている。世界のすべての人が、安全で清潔な水を手にできる未来を。誰もが安心して水に運べる日が、早く来ることを。そしてその未来のために、私たち一人ひとりができることは何かを考え続けていきたい。蛇口から水が出ることを、当然だと思わない。水を飲むことに感謝を忘れない。それが、私がこの旅で得た大きな宝物だ。

そしてもう一つ、私はこの経験から「伝えることの大切さ」も学んだ。自分が見て、感じて、驚いたことを、ただ自分の中だけで終わらせてはいけけないと思った。日本に戻ってから、私は家族や友人にフィリピンの体験を話した。水のことだけでなく、人々の暮らしや、子どもたちの笑顔も伝えたい。そうすると、話を聞いた人たちも「知らなかった」「考えたことがなかった」と、驚きや関心を示してくれた。

知ること、行動が変わる。行動が変われば、未来も変わ

る。私は自分の発信が誰かの意識を変えるきっかけになるかもしれないと信じている。これからも学んだことを言葉にし、行動にしながら、水と共に生きる世界の人々のことを思い続けていきたい。

優 秀 賞

断水生活の練習から 気付けた水の大切さ

和歌山県立向陽中学校 二年

まつもと なな
松元 菜那

そんなに念入りに準備しなくてもいいのではないかと軽く考えていました。

次の日、断水が起こることなく台風は過ぎ去りました。大きな被害が出なかったことに安堵し、断水のために準備していたものを片付けなければいけないと思いつつ、リビングに向かうと母が

「せっかく準備したのだから、今日は一日断水生活をしてみようか」

私が小学四年生のときに、大きな台風が起きました。雷がゴロゴロと音を立て、強風や大雨もあり、家が壊れてしまうのではないかと不安でした。そんな中、母が

「断水が起こるかもしれないからお風呂に水をためておこう」

と言いました。その後は、断水が起きても当分暮らせるように食べ物やトイレなどの準備をしました。お風呂にためた水には、腐らないようにする薬を入れました。母が準備している間、断水が起きたらどれだけ大変か知らなかった当時の私は、

うになっておいたほうがいいだろうと説明され、一日限りの断水生活が始まりました。まず最初に、断水生活の中で使う日用製品の説明から始まりました。例えば、お風呂には簡単に入れないからと、体を拭くシートが出てきました。その時点で、湯船につかるどころかお風呂に入れるのか怪しいことに驚きました。お風呂問題も衝撃的でしたが、一番水が使えないところなんにも不便なのかと思ったのはトイレです。トイレを使うのに水が必要なのは分かりますが、そんなに多くは使わないだろうと考え、トイレくらいは普通に使えるのだろうと思っ

ていました。しかし、一回でトイレでは約6リットルという大量の水を使っていたのです。断水生活をしている中での、6リットルはとても多い使用量でした。だから、トイレを使わずにシート型のトイレを使いました。いつもと全然違う使い方で慣れるまでに時間がかかりました。シートでのトイレは、勝手に水で流されないのでトイレをした後の片付けにも時間がかかりました。

母に説明された断水生活で使う日用製品を使って一日過ごしましたが、水が恋しくなるには十分でした。今まで当然のように使っていたたくさんの水は、あつて当然のものではなく、たくさん使える今の生活が幸運なことであることに気づくことができました。断水の経験をして水の大切さに気付くことができた今となっては、断水を軽く見て舐めていた小学四年生の自分に、水が当たり前のように使えなくなる生活がどれだけ大変でしんどいことなのかを伝えたいと思っています。また、それと同時に断水の恐ろしさを理解することができています。たった一日だけの断水生活でしたが、水の大切さやありがたさを身にしみて知ることができた貴重な体験でした。この体験から、水は私たちの生活に大きく関わっていて、なくてはならない存在だということを学ぶことができました。だ

からこそ、これから何十年先も今のようにならざるを得ない生活を送っていくように水を使えるよう水に優しい生活を送っていくように思いました。私達にできる節水は、無いように見えて日常の中にたくさん隠れています。そこに目を向け、これからの未来を考えることのできる人になりたいです。

貴重な水に感謝して

和歌山県立向陽中学校 二年 上田 陽真里
うえだ ひまり

夏になると、必ず家族で川に行く。川の浅瀬に足を入れては、透き通った水の綺麗さに心が奪われる。私はそんな川が大好きだ。

いつものように、夏に川へ出かけた日のことだった。車で目的地の川まで向かっているとき、ふと「どうしていつも川の中流に行くんだろう」と思った。私の両親は川に行く時は必ず中流に行く。下流の方も、いろんな人で賑わっていて楽しそうなのに、なぜわざわざ人の少ない中流あたりに行くのだろうか。疑問に思った私は父に、「どうしていつも川の中流に行くの」と尋ねた。すると父は「中流の方が川が綺麗だからだよ」と言った。確かに中流の川は綺麗だけれど、下流の川も綺麗なんじゃないのか。そう思った私は、下流の川に行ってみることを提案し、後日家族と下流の川に行くことになった。

父は中流の方が川が綺麗だと言っていたが、下流の川も中流の川と変わらず、綺麗なのだろうかと思っていた。当日は、早く着かないかな、と心が躍っていた。目的地の川に着くと、すでに多くの人で賑わっていて、早く川の水に触れたいと思った。すぐに川のほとりまで駆け寄り、川の水に触れようとした瞬間、あるものが私の視界に飛び込んできた。それは、ゴミだった。驚いた私は、すぐに辺りを見回した。ゴミの量は一つや二つではなく、様々な場所に落ちていた。川に訪れた人々がゴミを捨てていったのだ。私が想像していた川は、ゴミが一つも落ちていなくて、透き通った水に多くの人々が楽しそうにして、賑わっている川だった。想像していたものとは

違った川に、私はとても残念な気持ちになり、それと同時に怒りや悔しさなど様々な気持ちが出そうになった。なぜ人間は、自然を壊していくのだろうか。なぜ私は今までの川の現状に気がつけなかったのだろうか。けれどこんなことを考えていたって現状は変わらない。だから、今の私にできることをやろうと思い、私は川の周りに落ちていたゴミを少し拾った。周りのゴミを拾っただけでも、川の雰囲気は少し明るくなった気がしてとても嬉しかった。

家に帰ってから、川のことや頭から離れなかった。まだ信じたくなかったけれど、これが今の川の現状だということを受け止め、私達に何ができるかを考えた。私が考えたことは二つある。まず一つ目にゴミを捨てないことだ。「こんな常識だろ」と思っている人もいるだろう。しかし、川にゴミが落ちているということはゴミを捨てる人がいるということだ。一人一人がゴミをポイ捨てしないように意識することが大切だと思う。二つ目は現状について調べることだ。調べることによって現状をよく理解して問題点の解決や、より良くするための策などが考えられると思ったからだ。

この体験を通して、私は改めて綺麗な水が当たり前ではないことを実感した。水は有限だ。水がなくなった時のことなど想像できないと思うが、世界では綺麗な水が行き届いていない国だってある。この貴重な水に感謝して、より良い水と私たちの未来のために、これから私のできることを考えていこうと思う。

水不足を解決するために

和歌山県立向陽中学校 二年

中村 紅葵

なかむら くれあ

水は大切です。しかし、そのことに気付いていない人は多いのではないかと思います。二〇十八年の台風二十一号の影響で、私が住んでいた地域で断水が起きました。当時七歳だった私にとって、水はとても身近であったため、蛇口をひねっても水が出てこない状況に困惑しました。断水中の生活は大きく変化し、しばらく祖父母の家へ水を汲みに行きました。そのため生活に必要な最低限の水を使う節水を始め、お風呂ではお湯を貯めることができず、汲んできた水で体を洗いました。冷たい水で体を洗った時、温かいお風呂に入れることの喜びを、子どもながらに感じました。その後、学校の環境の授業で世界では多くの人々が水不足に苦しんでいることを知りました。その現状と解決策を、もっと詳しく知りたいと考えインターネットで調べました。

まず、水不足の現状について調べました。世界人口の約四十パーセントが水不足に苦しんでいて、二十五年後には人口の約五十パーセントの人々が水不足に陥ると考えられているそうです。また、日本でも地形的な理由と産業による水の需要増加によって、利用する水の量が減少傾向にあるそうです。

私は約二人に一人が水不足というこの数値を知ってとても驚きました。なぜなら、水不足に苦しんでいるのは一部の国や地域の人達だと思い、世界人口の十パーセント程度だと考えていたからです。私が住む地域が一時断水した時でさえ、水不足が生活に大きな支障をきたしたので、より深刻な水不足に苦しむ地域の人々は、どのよ

うな生活を過ごしているのか気になり、調べました。インドでは、人口増加にもなった都市への水不足が深刻化していて、安全な飲料水の値段は高騰し、多くの人が地下水に依存しているそうです。また、水不足によって子どもの病気が広まり、死亡率が高くなることもあるそうです。このことを知り、飲料水が手に入らない生活は、とても苦しく大変なのではないかと思いました。

次に、水不足の解決策について調べました。解決のためには、水問題の解決に取り組む団体を支援するなどの方法もありますが、まずは普段の生活で節水を心がけることが大切だそうです。自分ひとりの力では水不足を解決することは難しいと思っていたけれど、節水を行うことは中学生の私でもできることなので、一人一人の意識と日頃の積み重ねが大切だと感じました。そこで、節水とは具体的にどのようなことをすると良いのかと思い調べました。節水は、水を流しっぱなしにしないことだけでなく、お風呂の残り湯を洗濯に使うことでも行えるそうです。節水と聞くと、水を使わないようにすることを思い浮かべますが、このように水を再利用することも節水の一つだと知り、驚きました。

このようなことから、水不足を解決するためには一人一人の節水が大切だと思います。これからは、私自身が節水を積極的に行うと共に、水問題について多くの人に知ってもらいたいと思いました。

断水から学ぶ

和歌山県立向陽中学校 二年 西 咲久士

水はどれほど大切か。僕は小学四年生の時にそれを学んだ。そのときは突然やってきた。僕たちは水を使うことができなくなってしまう。数分前、車の中でテレビをつけたときに一つのニュースが目に入った。それは、僕たちが使う水が通る水道管が崩れてしまったというニュースだった。僕はその時、サッカーの帰りでどうすることもできなかったが、母、弟、妹が水をためておいてくれていた。このとき良かったと一安心できた。そして僕も家族と一緒に水を最大限にためた。風呂もためたり、洗濯もしたりした。母と父は、近くのスーパーに「水を買ってくる」といい家を出た。そして何とかその日は乗り越えることができた。

しかし、翌日完全に水が使えなくなっていた。いつもみたいに朝起きて「バシヤバシヤ」と顔を洗うことができないのでタオルに水を湿らして顔を洗った。朝ご飯はラップで食器を覆い洗い物をなくす工夫をした。特に不便だったのは、風呂だった。風呂を沸かすことができなかったの、我慢して水で体を洗った。冷たすぎてずつと震えていた。風邪を引いてもおかしくないほどだった。夜ご飯は、朝ごはんと同様に皿をラップで覆った。米を食べたくても米を炊くことができないので常のために冷凍の米をレンジで温めて食べた。いつもみたいに炊きたてのご飯を食べたかった。でもしようがないと思いつながら食べた。

翌日、海南市にある友達の家遊びに行った。そこはいつものように蛇口から水が出ていた。そこで僕は水があるのとないのとでぜ

んぜん違う、不思議だなと感じた。友達の母に「もしよかったらこれあげるよ。重いから気を付けてね。」と言われ大きな紙袋が渡された。その中には、たくさん飲み物とおかしが入っていた。

そしてその翌日、僕が通っていた小学校にも給水車が来てくれたり、紀の川を超えた遠い所に住んでいる友達も水を渡しに来てくれた。困っている人がいれば助け合おうのが大切だと改めて感じた。

あつという間に一週間が経ちニュースを見てみると、「今日から水がでる」というものが流れてきたのだった。家族で急いで蛇口に向かい蛇口をひねったその時だった。水が「ポツポツ」と落ちてきた。少し時間が経つと「ジャージャー」と勢いよく水が出てきた。僕は「やっと出た」と思い、自然と口に出た。いつも当たり前のように使っていた水がいざなくなったらどれほど待ち遠しいものか。水が出るのは当たり前ではない。そう思った。

この断水を通して、僕達がいとも使う、いつも隣にあると思っていた水が使えなくなるとどれだけ困るのが分かった。水を使っているのは決して当たり前ではない。水を無駄遣いしない。節水を心掛ける。一人でも多くの人がそういった心を常に持つことで少しでも多くの人水が使えるようになると思う。そして、水がなくて困っている人、何かがなくて困っている人を見つけたら助け合う。こういうことが人間としてやらなければならない大切な行動なんだなと、この断水で改めて思った。断水になったら苦しいし、たくさん困ることがあると思う。しかし、こんな状況だからこそ学べることにたくさんある。こんな貴重な体験をこれからの人生に活かしていきたいと思う。

水の大切さと共存

和歌山県立向陽中学校 二年

西口 にしぐち

莉々花 りりか

私は、雨が嫌いだ。なぜなら、個人的に雨が降ると気分が下がるからだ。雨が降っているととにかく楽しいことをしていたとしてもなぜかマイナスな気分になる。雨が降ることで移動手段も制限されるし、雨に濡れて風邪をひくこともある。いつそのこと雨なんか無くてもいいんじゃないか、と思ったことも何度もある。

ある日、そんな思いを母に話してみると、
「雨は私たちに悪影響を与えることもあるけれど、雨は必要不可欠なんだよ。」

と言われた。そこで雨の必要性を聞いてみたところ、雨が長い間降らないことで農作物が育たなくなり、野菜などの値段が高騰することを知った。母にそう言われて、雨が降ることは作物の成長を支えていることに気づいた。また、雨が降らないとダムの水が減って水不足になることもあるそうだ。そしてその話の中で最も気になったのは、山火事についてだ。雨が降らないと落ち葉などの水分が失われ摩擦によって火花が発生しやすくなる。そのため山火事が発生する原因にもなるそうだ。去年の春に起きた山火事のことを思い出した。それは、二〇二四年五月四日に山形県南陽市で起きた山火事だった。この山火事は約一二二ヘクタールが焼け、被害額が一億七〇〇〇万円にもなった。また鎮火にも九日かかり、県内で過去最大となる山火事だった。冬や春に山火事が多いのは冬や春は夏よりも雨が降る回数が少なく、乾燥しやすい気候だからだと学んだ。雨は時に私達を困らせてしまうこともあるが、雨は私達の生活に必要な

存在だということが分かった。

逆に水には怖い側面もある。私が住む和歌山県では、過去に大きな水害が発生した。二〇一一年に起きた紀伊半島大水害だ。この水害は八十人を超える多くの人が亡くなった大規模な水害だった。私が産まれる前に起こった水害なので実際に体験してはいないが、私も大雨の怖さを体験したことがある。それは、小学生の頃和歌山県内で線状降水帯が発生し、緊急下校した時のことだった。母と一緒に歩いて車まで行く時、自分のすねの高さまで雨水が溜まり、とても怖かったことを思い出した。この時の私の恐怖と比較すると、紀伊半島大水害の恐ろしさは甚大なものだったと考えた。

このような自分の体験から、「水」との関わり方を考えてみた。まずは、自然災害に対する備えをきちんと行うことである。各自が家族と避難場所を共有したり、避難用具の点検をこまめにすることで被害が少しでも小さくなり、私達の生活も守られるはずだ。

次に考えたのは、「水が限りある資源である、人間が生きていくために必要不可欠である」事を意識することだ。水は無限にあるように限られている。そのことを意識して無駄にしがちな資源を守るということが大切だと思う。私も水を出しっぱなしにすることがよくある中で、小さなことも日頃から気をつけようと思った。また、前までは憂鬱だった雨の日も、大切な資源だと思うと、少しだけ雨を好きになれるかもしれない。

水について

海南市立亀川中学校

二年

山口 やまぐち

苺華 もか

私たちが生きていくうえで、水はなくてはならない存在です。水は私たちの生活の中でさまざまな場面で使われています。朝起きて顔を洗うとき、歯を磨くとき、ご飯を作るとき、のどがかわいたとき、お風呂に入るときなど、水は常に私たちの生活の中にあります。水があることは当たり前のように感じますが、大切にしなければならぬものです。

地球にはたくさんのお水がありますが、その約九十七パーセントは海水で塩分を含んでいるため飲むことができません。残りの三パーセントが淡水ですが、そのほとんどが氷河や地下にあります。そのため、私たちが日常的に使える水はほんの少ししかありません。日本では蛇口をひねるといつでもきれいな水が出てきますが、水不足に悩む国や地域では、遠くの川や井戸まで水を汲みにいかなければならない子どもたちもいます。安全な水が手に入らず、病気になってしまうこともあると聞いて、水を無駄にしてはいけないなと思いました。

水は自然の中でも大切な役割をしています。植物は根から水を吸って成長し、雨がふることで森や畑にうるおいがあたえられます。川や池、湖は魚やカエルなどの生き物の住む場所となります。動物たちも水辺に集まって水を飲んだり、食べ物をとったりしています。このように、水は多くの命を支える存在となっています。また、夏に川遊びをしたり、海で泳いだりするように、水は私たちの楽しみや思い出にもつながっています。

しかし、最近では水に関する問題も増えてきています。工場の排水や生活の中で出た水が川や海を汚し、そこに住む生き物たちに悪い影響を与えてしまうことがあります。また、地球温暖化によって気候が変化し、大雨による洪水や、雨が長く降らないことによる干ばつなど、水にかかわる自然災害も多くなっています。もし、水が汚れたり、使えなくなったりしたら、私たちの生活が不便になり、健康にも悪い影響が出ると思います。

私たち一人ひとりにできることは小さいかもしれませんが、少し気をつけるだけで、水を大切にすることにつながります。例えば、歯磨きをしているときに水を出しっぱなしにしないようにしたり、シャワーの時間を短くしたりすることはすぐにできる工夫です。また、お皿を洗う時に水をためて使えば水の無駄づかいを減らすことができます。こうしたちよつとした行動を毎日の生活で続けていけば、大きなちがいがつながると思います。水は限られた資源なので、水があることは当たり前ではないということを忘れずに行動することがとても大切だと思います。また、友達や家族と水の大切さについて話し合い、意識を高めることも必要だと思います。

私はこれからも、毎日の生活の中で「水があることは当たり前じゃない」ということを忘れないで、水を無駄にせず、大切にしていきたいです。そして、どんなときでも、どこにいる人でも、安心して水を使えるようになってほしいと思います。のどがかわいたときにすぐに水が飲めたり、きれいな水で体を洗ったりできる生活が、世界中の人にとって本当に当たり前になるように、これからも水を大切にしていきたいです。

自分のできる節水く水と共にく

開智中学校 一年

あきさか
明坂 隆真
りゅうま

私達が多くのことに利用している水道水は、なぜこんなにも平和で安全に使えるのだろうか。これは、先人たちの努力の成果だろう。私達は、この恵みを当たり前のように使っている。この当たり前という感覚が、水の無駄遣いにつながっているのではないかと思う。

このように言っているが、私も水を使い過ぎていて自覚はある。主に洗顔中や入浴中など何かを洗う時に使い過ぎていてと思う。日本のように、安全な水を安心して使える国はめずらしいと、言われている。そんな貴重な水を、私たちは平気で使い過ぎてきているのだ。この作文を書くにあたり、そこは反省している。

私がよくやってしまうシャワーの出しっ放しでは、三分ほどで約三十六リットルも流れてしまうと聞いたことがある。いつもその三倍ほどは出しっ放しにしていると思うので、百リットル以上は無駄になっていると考えて良いだろう。こうして数値化してみると、今まではどれくらい無駄にしていたか想像がつかなかったが、とても無駄遣いしていることがよく分かる。それを毎日しているのだと考えると、一週間で七百リットル、一ヶ月で三千リットルと、とんでもない量の水が無駄になっている。世界には飲み水の確保すら難しい人もいるのだから、こんなにふざけた無駄な水の使い方に対して、とても情けなく思う。こうして自分の生活と結びつけ、数値で見るとどれだけ水に無関心だったかよく思い知らされる。今まで散々水の大切さについて注意されていたのに、どれだけ聞き流していたかと思うと恥ずかしい。

また、自然災害や老朽化などによって断水になってしまう事象は、日本国内でも度々発生している。私の住んでいる地域、通っている学校の場所どちらも、三十年以内に八十パーセントの確率で起こると言われているあの南海トラフ巨大地震とは、無縁ではいられないだろう。そうなれば、断水もまぬがれない。過去にも現在にも、十分な水を得られない人々が多くいるだろう。そんな人からすると、優雅に軽率に水を浪費していく人々は許せないだろう。そんな人々のために、自分には何ができるだろうか。

まずは当たり前だが、水を無駄遣いしているシーンを、できるだけ減らしていくことだろう。

・シャワーを出しっ放しにするのではなく、石けんで洗っている間は止める。

・歯磨き中の水の出しっ放しを止める。

・手洗い中も流すとき以外は水を止める。

・家庭内で水を再利用する。

・水の量を使い分けられるところは使い分ける。

など、さまざまな方法が思いつく。実行に移すことができれば、水の使用量は大幅に削減できるだろう。

水は生命にとって、とても重要な物資だ。だが、限りある資源を大切にしなければ、将来自分の首をしめることになり、その先の人々が苦しむことにもつながる。だからこそ、今十分に水を使うことができている私達が、独り占めするようなことはあってはならないと思う。私達生物の全ては、水に生かしてもらっているのだから、意識的に動ける私達が「節水」を進めることが大切ではないだろうか。

水と生き、水に生きる私達は、その貴重な水をいねいに、そして平等に使う義務があると思う。だからまずは、「節水」について、自分のできることを始めていきたい。

宝物の水

和歌山県立向陽中学校 二年

岡本

歩侑

おかもと

ほゆ

「水」という単語を聞いて最初に思い浮かべるのは、小学生の時にドイツから日本に引っ越してきた時のことだ。それは日本の蛇口から、飲むことができる綺麗な水が出てくることだ。私にとってそれは大きな衝撃だった。なぜなら、私が海外に住んでいたとき、水はスーパージなどに売っているものを飲むことが多かったからだ。また、ほとんどの家庭に、蛇口から出てきた水をろ過して飲むウォーターポットがあった。

この出来事を思い出して世界には何カ国の国が蛇口から出てくる水を飲めるのだろうかという気になったので、調べてみることにした。すると出てきたのは、わずかに十二カ国しかないという事実だった。正直もつと沢山の国が日本のように蛇口から出てくる水を飲めると考えていたから驚いた。なぜこんなにも数が少ないのか。それはインフラの設備などの理由もあるが、地形や土地が乾燥している、などの地質、天候の影響など、一番大きな原因は自然環境にあるらしい。そうすると、日本や水道から出てくる水を飲める国は、環境に恵まれているということだ。

ではもし日本の森林がなくなってしまうと日本はどうなってしまうのだろうか。日本の森林は、雨の水をゆつくりと流す役目や、だんだんと地下に浸透させていき綺麗にしていく役目を果たしている。それがなくなってしまうと、土砂崩れなどの災害が起きるのはもちろんのこと、水が汚れていってしまう。そうすると、水の行き届かなくなるところから順に太陽の光が行き届かなくなった木のよう

に枯れていってしまうだろう。ここから私達にとって水は欠かせない宝物のような存在であり、水に守られていることが分かる。

私にとって水は体内の水分を保つためのもとても大切なものだが、もう一つ水が大切な理由がある。それは水の音だ。私は小さいときから、眠れないときはいつも川の音を聞きに行き、リラククスしていた。今でも雨の音や川の流れる音、水中の音などを聞くととても心が安らぐ。そのため本を読んだり、寝る前の少しの間だったり水の音を聞くことが多い。このような感覚は、多くの人にも同じようにあるらしく、それは1/fゆらぎという規則性と不規則性のバランスが取れた、自然界にみられるゆらぎが水にはあるためらしい。また、私達哺乳類はお母さんのおなかの中にいるとき、水に囲まれて成長してきた。それもこのような感覚と関係があるという。この水の音に限らず、水にはたくさんさんのリラククス効果がある。例えば水を飲む、水につかるなどだ。このように水には、人の心を落ち着かせることができる効果がある。このように私は、蛇口から出るような人の体を支える働きをする水だけではなく、川や海、湖などといった自然の中にある水も大切にしていきたいと考えている。

最後に、水には体を支える役目のほかに人の心を癒す役目がある。それがなくなってしまうと人々の生活は大きく変化してしまう。それは身近なところであり、この日本のように世界中どこでも蛇口から飲むことのできる水が出てくるとはかぎらない。それどころか毎日きれいな水が身近にあることが普通ではないことも多いのだ。それは私達に大きく関係しており、一人ひとりが水についてこれから考えていく必要がある。だから水は宝物のような存在で、必要なものである。しかし、手に入れることは難しいことを多くの人に知ってもらいたい。

水の大切さ

和歌山県立向陽中学校 二年

生越 おごし陽菜 ひな

私が水の大切さに気付いたのは小学四年生のときです。きっかけは和歌山で起きた断水でした。

二〇二一年に和歌山市の六十谷水管橋が崩落し、水道が出なくなり、トイレもお風呂も使えなくなりました。そして、これは私が物心がついてから初めての断水でした。今まで蛇口をひねると当たり前のように水が出ていたのに、水が出なくて使えない状況になり、不便だし、不安でした。慌てながらも、水がないとご飯を作ることのできないので、水を求めてスーパーマーケットなどに行きました。しかし、どこも品切れ状態でした。そして、断水初日の朝には、母と祖母といっしょに小学校に水をもらいに行きました。小学校には行列ができていて、水をもらうまで三時間ほど並びました。ようやく水をもらえてもすぐ重くて全然運ぶことができませんでした。当時担任だった先生が途中まで運ぶのを手伝ってくれて、なんとか家に運ぶことができました。大きいサイズのゴミ箱二つ分をもらってきたので当時の私は「これだけあるからしばらくは大丈夫だろう」と思っていました。しかし、それだけあった水も数日のうちに使い切ってしまうました。お風呂、トイレや手洗いなど、清潔さを保つために必要なことで多くの水を消費したからです。ですが、もらってきた水を使い終わる頃にはスーパーマーケットでも少しずつ水が出てきたので、その時の断水はしのげました。

去年の環境の時間に私が一日に使っている水の量を調べる機会がありました。その日に使っていた水の量は約五五〇リットルでした。

普段一日にこの量を当たり前に使っていたのだと知って驚きました。それに、汚れをきれいにするために必要な水の量が、二〇〇ミリリットルのラーメンの残りつゆが四〇〇〇リットル、二リットルの米のとぎ汁が四八〇〇リットル、五〇〇ミリリットルの使用済み天ぷら油が一〇〇〇〇リットルということも教えてもらいました。私は、汚れをきれいにするのには、その汚れと同じ量の水があれば足りると思っていました。しかし、これだけの量の水を使っていたことを知って、汚れをきれいにするためにはその汚れの何倍もの水が必要になるのだと、分かりました。これからはできるだけ汚れをきれいにした状態でゴミを処分しようと思いました。

そして、世界には二億人の安全に管理された水を使えていない人がいることを知りました。日本では普通にきれいで安全な水を使うことができているので意識的に目を向けないと気付くことができませんでした。川に流れているような水を使って生活するなんて考えられないので、これが当たり前になっている人がいる現実がとても悲しいです。私だけではこの現状を変えることができないから、私にでもできることを少しずつ取り組んでいきたいです。

私はこのようなことから水が使えることを当たり前に思うのではなく、大切にしたいから水が出ない状態を続けていくためには自分たちの努力も必要だと思うので意識していきたいです。水の大切さを忘れずにこれから生きていきたいです。

未来へつなぐ水の知恵

和歌山県立田辺中学校 一年 総村 梨里香 かせむら りりか

皆さんは鳥の巣半島について聞いたことがありますか？和歌山県田辺市新庄町から田辺湾に向かって突き出た、リアス式海岸に囲まれた小さな半島です。すぐ沖には、南方熊楠と関わりが深い、国の天然記念物に指定されている神島があります。半島の大半は山で、海沿いには民家が点在しています。また、海のすぐそばに田畑があるのも特徴です。海水の影響を受けないのか不思議に思われるかもしれませんが、半島の山側には、いたるところに小さなため池があり、この水が貴重な水源となっているのです。地元の人たちは、古くからこのため池を大切に管理し、農業や生活用水として利用してきました。私は自然観察会で、鳥の巣半島を訪れました。

観察会では、ため池や周辺の森で様々な生き物を観察しました。水面をスイスイと泳ぐ小魚や、水辺で羽を休めるトンボ、森の中でひっそりと咲く山野草など、豊かな自然に触れることができました。特に印象的だったのは、サンショウウオに出会えたことです。こんな身近な場所に、貴重な生物が生息していることに感動しました。しかし、その一方で、ため池には外来生物であるアフリカツメガエルが繁殖しているという問題を抱えています。アフリカツメガエルは在来の生態系を脅かす存在であり、早急な対策が必要です。観察会では、実際にアフリカツメガエルも見ることができ、生態系への悪影響を肌で感じました。

鳥の巣半島の自然を守るため、田辺高校や田辺中学校の生物部が積極的に活動しています。彼らは半島全体や、特にため池の生物調

査を行い、アフリカツメガエルの駆除活動にも取り組んでいます。私の兄も田辺中学校の生物部員だったので、この活動に参加していました。地元の高校生や中学生が、自分たちの住む地域の自然を守ろうと努力している姿を見て、私も何かできることはないかと強く思いました。

これほど大変なら、ため池を埋めて、水道を引いたほうが早いのかな？という気もしてきました。そこで、身近な水道について調べてみました。私の住んでいるところは、高台の住宅街にあり、下の川から引いた水を浄水場で浄化しています。その浄水場から綺麗になった水をくみ上げ、高台の一番高い場所にある大きな給水塔に水をためています。より高いところに水をためておくのが便利なのです。ビルの上にもよく水のタンクがあり、同じような仕組みを作っています。しかし、山に作ったため池の場合は、くみ上げるためのポンプを必要としません。つまり、電気エネルギーを消費しないため、環境負担が低いという大きな利点があります。また、災害時には重要な水源としての役割を果たします。水道が止まってしまっても、ため池の水があれば最低限の生活用水を確保できるからです。

地域によって、気候や地形などの環境は大きく異なります。鳥の巣半島のようにため池が適している地域もあれば、水道が適している地域もあるでしょう。しかし、どの地域においても、その土地の特性を生かした水の利用法を考えることが大切です。生物の多様性を守るためだけでなく、災害時の安全を確保するため、そして地域の文化を次世代に承継するためにも、昔からある知恵を生かした水の活用法を、これからも大切に維持していく必要があると思います。そして、私たち一人ひとりが、水の使い方を見直し、持続可能な社会の実現に貢献していくことが求められているのではないのでしょうか。

水のありがたみ

和歌山県立向陽中学校 二年 左古 真優

断水のお知らせ。三年前のある日、水道管を替える工事のため、一日水が使えないと知らされました。この手紙がポストに入っていた時は、とても驚きました。私たちの生活には水が不可欠で、水が使えなくなることに実感が湧きませんでした。私にとって水は、大切なもので、すぐに手に入れられて当たり前にあるものというイメージがありました。だからこそ、当たり前前の状況がなくなってしまうことに不安と怖さがありました。一日だけと言っても、食事、お風呂、洗濯、歯磨き、トイレなど数えきれないほどのことに水を使い、一日に約二百六十二リットルもの水を使います。水を使えなくなることを考えれば考えるほど不安になり、水がなくなるとどうなるのだろうかとたくさん考えました。

一番最初にとった行動は、スーパーマーケットに水を買に行くことでした。私は、四大家族でたくさんのお水を手に入れないといけません。しかし、他にも水を買おうとしている人がたくさんいて全然買えません。こんなにも、水がない状況を見たのが初めてで、すごく衝撃的でした。この水が買えなくて困っていた時に、叔父が二リットルのペットボトルを何箱も買ってきてくれました。水は、一リットルで一キロもあって、とても重いのに持ってきてくれてすごく安心したのを覚えています。

ここまで水の重みを感じたのは初めてでした。当たり前前だと思っていた水は、当たり前前ではないし、この水をすぐに手に入れられる状況は、ありがたいことなのだと感じました。節水をしたり、お風

呂のお湯を洗濯に使ったりするなどして、水のありがたみを噛み締めていきたいです。また、水を溜めておく容器も買いました。水を溜めるのに、すごく時間がかかりました。十リットル溜めるのには、五分以上かかりました。それに工事の前日には、お風呂にも水をはりました。お風呂に水がはっているのは日常的なことだけれど、一回分のお風呂に約二百リットルも使うと知り、お風呂に入れることは幸せなことなのだと改めて実感しました。結局、夜中の三時間ほど水が止まっただけで、大きな被害はなかったです。しかし、二、三日の間に少し黒い水が蛇口から出てきました。いつも透明な水で生活しているため、黒い水が出てくるなんて思っていなかったのです。すごく衝撃的でした。「透明な水」が使えるのも当たり前ではなく、幸せなことなのだと改めて感じました。工事が終わってからもし本当に一日水が使えなくなっていたらと思うと不安になりました。これからもっと水を大切に使うと思え、すごく水のありがたみを考えさせられる良いきっかけになりました。

日本は、蛇口をひねれば綺麗な水が出てきますが、世界には、水をくみに行かないと水を手に入れない国や衛生設備が整っていない国、綺麗な水が使えない国がまだたくさんあります。日本のように蛇口をひねって水が出てくるのは、当たり前ではないです。綺麗な水が生み出すためには、多くの人が関わっているのです。当たり前前の状況に感謝し、これからも水を大切に使うて行きたいです。

水の物語

和歌山県立田辺中学校 三年

茶畑 ちゃばた有那 ゆな

水。それは地球の命の源であり、私たちの生活に欠かせない存在だ。朝、目覚めて最初に口にする一杯の水。雨音を聞きながら窓の外を眺める瞬間。海が寄せては返す音に心は奪われるひと時。水は、私たちの日常に静かに、しかし力強く寄り添っている。まるで地球そのものが語り掛けてくるかのように、水は無数の物語を紡いでいる。

水の美しさは、その多様性にある。山の奥深くで湧き出る清らかな湧き水は、透き通った輝きで心を洗い流してくれる。木々の間を縫うように流れる小川は、軽やかな音を奏でながら、生命の鼓動を伝える。広大な海はどこまでも続く青いキャンバスに、時には、穏やかで、時には荒々しい表情を見せる。雨は、空から降り注ぐ恵みとして、乾いた大地に潤いを与え、作物を育て、命を繋ぐ。水は静かでありながら、力強く、変幻自在だ。

私たちの体もまた、水でできている。人間の体の約六十%は水であり、血液や細胞の一つひとつに水が流れ、生命を支えている。食べ物や栄養を運び、不要なものを排出する。水がなければ、私たちは生きていくことすらできない。考えてみれば、こんなにも身近で、こんなにも大切な存在は他にないだろう。一杯の水を飲むたびに、私たちは地球の恵みを受け取っているのだ。

しかし、水の物語は美しいだけではない。現代社会では、水を巡る問題が深刻化している。世界では、きれいな飲み水を手に入れられない人々が何億人もいる。工業化や都市化によって、川や湖が汚

染され、かつては清らかだった水が濁り、命を育む力を失いつつある。気候変動による干ばつや洪水は水のバランスを崩し、人々の生活を脅かしている。私たちは、水のありがたみを忘れ、まるで無限にある資源のように扱ってきたのかもしれない。小二の頃、夏の日、友達と川で遊んだ記憶がある。水しぶきをあげながら笑い合い、冷たい水の感触に歓声を上げた。あの無邪気な時間の中で、水はただ「もの」ではなく、喜びや絆を運ぶ存在だった。中学生になった今、忙しい日々の中で、そんな水との繋がりを忘れがちだ。だが、ふとした瞬間に水の音を聞くと、あの日の記憶が蘇る。水は、時間や空間を超えて、私たちの心を繋いでくれる。

水を大切にするためには、まずその存在に感謝するところから始めたい。朝、蛇口をひねって出てくる水に、ほんの一瞬でも「ありがとう」と心の中で呟く。節水を意識し、プラスチックのごみを減らし、川や海を汚さない努力をする。小さな行動かもしれないが、それが水の未来を守る一歩になる。世界のどこかで、水を求めて何キロも歩く子どもたちがいることを思うと、私たちにできることはまだまだあるはずだ。水は地球の歴史そのものだ。何億年もの間、雨となつて降り、川となつて流れ、海に集まり、再び空へ還る。その循環の中で、恐竜が水を飲み、古代の人々が水辺で暮らし、現代の私たちが水を使って生きている。水は、過去と現在、そして未来を繋ぐ架け橋だ。このかけがいのない存在を、次の世代に手渡す責任が私たちにはある。水が教えてくれたことがある。どんなに小さな水たまりでも、どんなに広大な海でも、水は、いつも何かを映し出し、命を宿している。私たちがまた、水のように誰かの心に美しいものを映し出せる存在でありたい。

きれいな水

開智中学校 二年

弘田 詩乃

ひろた しの

「ほーたるこい！」桜が散り、暖かくじめじめとしてきた梅雨入り前の六月ごろ。山の中の川の近くで、私は妹と「ほたるこい」の歌を歌いながら、日が暮れてほたるを見る事ができることをわくわくしながら待っていました。

毎年、その季節になると、私は家族と一緒に山へほたるを見に出かけます。天気が悪くてほたるを見ることができないこともあるし、道があまり整備されていない山の中まで行くことは少し大変だけど、それ以上に、なかなか予定が合わない家族と夜に出かけて、きれいなほたるを見ることが嬉しくて、毎年その日が待ち遠しいです。

ほたるが飛び始めるのは日が暮れてからなので、山に到着してからは少し時間があります。その時間は、家族で話しながらおにぎりなどを食べたり、父と外へ出て生き物を探したりします。私はその時間に妹と歌を歌ってほたるを待つことが好きです。私はその

ですが、私は妹と「ほたるこい」の歌を歌っていて不思議に思うことがあります。

それは、この歌の「あっちのみずはにがいぞ、こっちのみずはあまいぞ」という歌詞の「水がにがい」、「水があまい」という表現の仕方です。私が考える、川の水や水道水に味はありません。

そこで私は、なぜ歌詞の中で水の味を表現したのか気になり、調べてみることにしました。最初、調べる前は、この歌詞に深い意味はないのかなと思っていました。でも、調べ進めてみると、「あまいみず」というのはきれいな水のこと、「にがいみず」というのはあま

りきれいな水ではない水のことを表している意味だということが分かりました。

つまり、この歌は「美しいほたるはきれいな水が流れている場所にしか集まらない。ほたるを見るためには水をきれいに保たなければいけない。」ということを伝えたいのかもしれないと気づきました。このことに気づくことができたとき、私は二つのことに気づき、考えました。

一つ目は、周りに田んぼや畑があることです。きれいな水が流れている川から引いた水を使って育てたお米や農作物はとてもおいしいのだろうと思います。水がきれいなことは私たち人間の生活にも大きく関係しているのだなと知ることができました。

二つ目は、ほたるが集まる場所には、ほたるだけではなく、他にもたくさん生き物が住んでいるということです。自然が豊かできれいな場所にはさまざまな生き物が集まり、住んでいます。そして、そのさまざまな生き物が関わって、おいしい農作物ができることもあると知ることができました。

これらのことから、私は、きれいな水があることで、たくさん生き物が住み、農作物を育てることができ、私たちがおいしい食べ物を食べることができていることに気がつきました。

正直なところ、今まで水について深く調べたり、水の大切さを考えたりしたことはほとんどなかったけれど、私が気づかないうちに、私たちの生活に大きく関わっていることを改めて深く実感することができました。

今ほたるが集まっている綺麗な水を保つことができている川を、これからも汚さないように心がけたいと思いました。

そのためには、川などにゴミを捨てないことはもちろんのこと、ゴミを見かけたら捨てることができるような人になり、そして、今回私が気づくことができたこと、考えたことをいろいろな人に伝えることができるように努力していきたいと思えます。

海南省の水道について

海南省立亀川中学校 一年 南島 あい
みなみしま

私は、毎日水道水を飲んでいきます。先日、群馬県で水道水を飲んで食中毒になったというニュースを聞きました。私は、「水道水で食中毒になるなんて」と凄くおどろきました。そこでふと、海南省の水道水は本当に安全なのだろうかと気になりました。私の身近に水道に関わる人がいるので、その人に海南省の水道水について聞いてみることにしました。

まず、海南省の水道の概要について聞いてみました。海南省には、室山、下津、加茂という三つの浄水場があるそうです。海南省には大きい川がないので別の地域から水を取っているそうです。室山浄水場の水源は紀ノ川で、一日に約二万五千トンの水を作っているそうです。下津浄水場の水源は有田川、加茂浄水場の水源は地下水で、二つ合わせて一日に約九千トンの水を作っているそうです。そして、海南省には山間部が多く、そこに住んでいる人たちに水を送るための中継ポンプ場も多いそうです。

次に、その水をどのようにしてキレイにしているかについて聞いてみました。まず、川の水を取るための取水口から水を取りこみ、送水ポンプ場から送水管を通して浄水場に送られます。そして、浄水場内の着水井に入り、そこから沈でん池に入り不純物を取り除き、その後、ろ過池に入り細かい不純物を取り除いてキレイな水になるそうです。この過程で機械等のトラブルがあれば、水道水を作ることができなくなるため、職員さんが二十四時間三百六十五日常駐し、監視しているそうです。それから、一か月に一回水質検査をして、

結果等を海南省のホームページに公表しているそうです。

きれいな水を各家庭に届けるまでに大変なこととして、一点目は、天候によって、とても手間がかかってしまうことがあります。大雨の時に川の水がにぎり、ろ過する際の砂が目詰まりを起こすため、通常よりも非常に手間がかかるそうです。一方、雨が降らなすぎると川の水が無くなり、水道水の元となる川の水が取れなくなり、ひどいときには計画断水を実施せざるを得なくなるそうです。尚、計画断水というのは、時間帯を決めて各家庭の水道水を出なくすることだそうです。二点目は、雷等の影響により停電が起こった際に中継ポンプ場が止まってしまう可能性があることです。その時は直接現場に向かい、中継ポンプが正常に動いているかどうか確認しなければならぬそうです。三点目は、水道管が破裂して道路が水浸しになっているニュースをよく見ますが、海南省でも同様に老朽化した水道管が多く、その更新作業が道路を掘ったりするので大変だそうです。尚、埼玉県で起こった大きな工事事故ですが、あれは、下水道管であったため、管の中に土がたくさん流れ込み、大きな工事事故になりましたが、水道水が流れている管は、穴が開いても土が流れ込むことはなく、むしろ、流れてくる水がふん水のように吹き出してくるため、あそこまで大きな工事事故になることはないそうです。

私は、キレイな水道水が家に届くのは当たり前じゃないんだなと思いました。また、私たちの家に水道水を届けるために、様々な工夫や苦労があることを知りました。浄水場で職員さんが二十四時間三百六十五日ずっと監視しているなんて思わなかったし、何より、海南省の水道水の安全さに感激しました。

今までは、シャワーを浴びる際や、歯磨きの際に水を無駄使いしてしまっていました。これからは、シャワーの出しすぎには注意し、歯磨きの際には水を流しっぱなしにしないように心がかげようと思います。そして、海南省の大切な水道水を守るように力を尽くしていきたいです。

水と生き物の関係

和歌山県立向陽中学校

二年

矢出^{やで}楓^{かえで}

私の家は和歌山市にあつて、農家をしておりみかんや柿、桃などその他色々を育てています。その中で一番水を使うのがお米を作る時です。お米は苗を作る「もみまき」という作業をする時や田植えをする時とした後にもたくさん水を使います。

ふと、私はそのたくさんさんの水はどこから来たのか疑問に思いました。私の家の近くには川らしき川は無く、どこに水源があるのか不思議でした。そこで、母に聞いてみると、私の家が持っている竹藪の手前の道沿いにある北池と呼ばれる大きな池から引いていると言いました。北池はGoogle Earthで上から見ても分かるくらい大きな池でいつからあるのかも知らない池で、よく日向ぼっこをしている亀や魚を取りにやってきたカモ達を見かけます。北池にはたくさんさんの生物が住んでおり、それを狙った鳥や動物がやってきており、このあたりの生物たちにとって大切な居場所だと思えました。しかし、現在、私達人間はその生態系を壊しています。例えば田んぼを埋め立てて新しい分譲住宅を作ることにより、田んぼに住んでいました。もしくは、田んぼにいる生物を狙っている動物が生きられなくなったり、食料が足りずにその生物の減少にもつながってしまいます。このような都市化などにより日本ではこれまで110種、絶滅危惧種を含めて124種もレッドデータリストに登録されています。そこで、私達人間はどのようにして生態系を守っているのか考えました。

私は去年のことを思い出しました。中1の5月頃、学年のみんなが海南市にある孟子フィールドワークに行きました。この場所は「ピオトープ孟子」という名前で、山に囲まれており自然と隣り合わせの所にありました。そこには、様々な生き物や植物がいます。中にはレッドデータリストに登録されているニホンアカガエルなどもいました。ここには、水田がいくつもあり、何がいるか網で探すと、カエルやメダカなど多くの生き物がそこにはいました。また、その中には見たことのない生き物もおり家の田んぼにもいない生き物もいました。さらにその水田には様々な植物も生えていました。見たことのあるけど名前は知らないものや見たこともない植物もありました。私は、水田は米などを作る以外にも生き物の住かともなれることを改めてこの時思いました。

今、生き物たちが生きられる環境を作るには水が不可欠です。水があるから植物が生えて、その植物を食べる小さな生き物がやってきてその生き物を食べるにさらに大きな生き物がやってくるように植物連鎖がおこります。この関係を壊してしまうのは良くないと思います。それを守るためには、「孟子ピオトープ」にある水田のようなものを自然に近いところに作ったりすることが大切だと思えます。水と生き物はつながっていて、互いに大切な存在だと思えます。

私と水

海南市立亀川中学校 二年

よこで
横出 ひなた

私は、日頃生活に関わっている水について調べていたところ、水質汚染が環境問題の一つということを知りました。年々、環境問題が深刻化していて、私達にできることはないかと思い、さらに水質汚染について調べてみました。本来、海や川は自浄作用により、汚れた状態になることはありません。しかし、自浄作用で浄化できないくらい汚れるになると水質汚染が起こってしまいます。水質汚染は、人の生活に影響を及ぼす前に海や川の生態系に対して大きな影響を及ぼします。この、水質汚染が起こってしまう原因は三つあります。

一つ目は、地球温暖化です。一見地球温暖化と水質汚染は関係ないように思う人も多いと思いますが、地球温暖化により山火事が発生することがあり、山火事の煙には汚染物質が含まれているため、水質汚染につながります。その他にも、酸性度の高い酸性雨が発生することにより、生態系が破壊され、水質汚染につながります。

二つ目は、産業排水です。工場などで使われていた水が直接海や川へ排水されてしまったり、汚染された土地の排水が土壌にしみこむことで地下水ができたりして土壌を汚染してしまっています。

三つ目は、生活排水です。実際に世界で排出されている生活排水のうち九十パーセントが未処理で放流されているそうです。

私は、今までしてきた社会の学習で工場や家から出た排水は下水処理場で処理されていると思っていましたが、排水の半分以上が未

処理ということを知って、下水処理場を増やすなど、改善していかなければならないのではないかと思います。

水質汚染は、二〇一六年に開始された国際目標の「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標六の「安全な水とトイレを世界中に」で二〇三〇年までに解決しないといけない課題として取り組まれています。水質汚染改善に向けて私は、自分達一人一人ができる取り組みを考えました。私が考える私達ができる取り組みは全部で二つあります。

一つ目は、食べ残しをしないことです。食べ残したものが、海に流出することで、水質汚染につながってしまうと考えたからです。調べたところ、特にマヨネーズや天ぷら油などの BOB (生物化学的酸素要求量) が多いと影響を及ぼすそうです。

二つ目は、プラスチックをなるべく使わないようにすることです。私が海に行った時によくプラスチックやビニール袋を見かけることがあります。プラスチックなどが海にたまっていくと、どんどん海が汚くなります。プラスチックを一切使わないということは難しいので、例えば、買い物に行くときはエコバックを持つていくなどの小さいことから意識して取り組んでいくことが大切だと思います。

このように、地球温暖化・産業排水・生活排水の影響で水質汚染が起こってしまうということがわかりました。水質汚染が起こってしまうと海も生態系にも被害が及び、それを私達が食べてしまう人間にも被害が出てしまうなど世界中の人々が意識して取り組んで一人一人にできることなどを世界中の人々が意識して取り組んでいかなければならないということをあらためて感じました。水は私達の生活にとっても必要なものです。水質汚染などの影響で私達が使える水はとても貴重ということが分かったので、これからはもつと水を大切にしていこうと思いました。

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第49回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域振興課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL 073(441)2371
- ⑤応募期間・・・令和7年5月9日締切り
- ⑥版权等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2 応募結果

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
8	630	210	320	100

3 審査

和歌山県審査において、優秀賞3編、入選5編、佳作10編あわせて18編の入賞作文を決定。

(協力 和歌山市中学校国語教育研究会)

4 表彰

(1) 賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書カード
入選	賞状、図書カード
佳作	賞状、図書カード

(2) 表彰式

優秀賞の受賞者を令和7年8月6日、和歌山県庁において表彰

